

第1章

基本的な事項

- 1 策定の目的と考え方
- 2 位置付けと役割
- 3 基本事項
- 4 構成

第2章

都市の現状と課題

- 1 広島市のなりたちと特色
- 2 都市の現状と動向
- 3 広島市の都市づくりの課題
- 4 方針策定にあたっての留意点

第3章

都市づくりの目標と方針

- 1 都市づくりの目標
- 2 都市づくりの方針

第4章

めざすべき都市構造

- 1 都市構造の転換
- 2 集約型都市構造の構成

第5章

分野別の方針

- | | |
|--------------|-----------|
| 1 土地利用 | 4 環境保全 |
| 2 都市施設の整備・活用 | 5 都市防災 |
| 3 市街地整備 | 6 都市の魅力向上 |

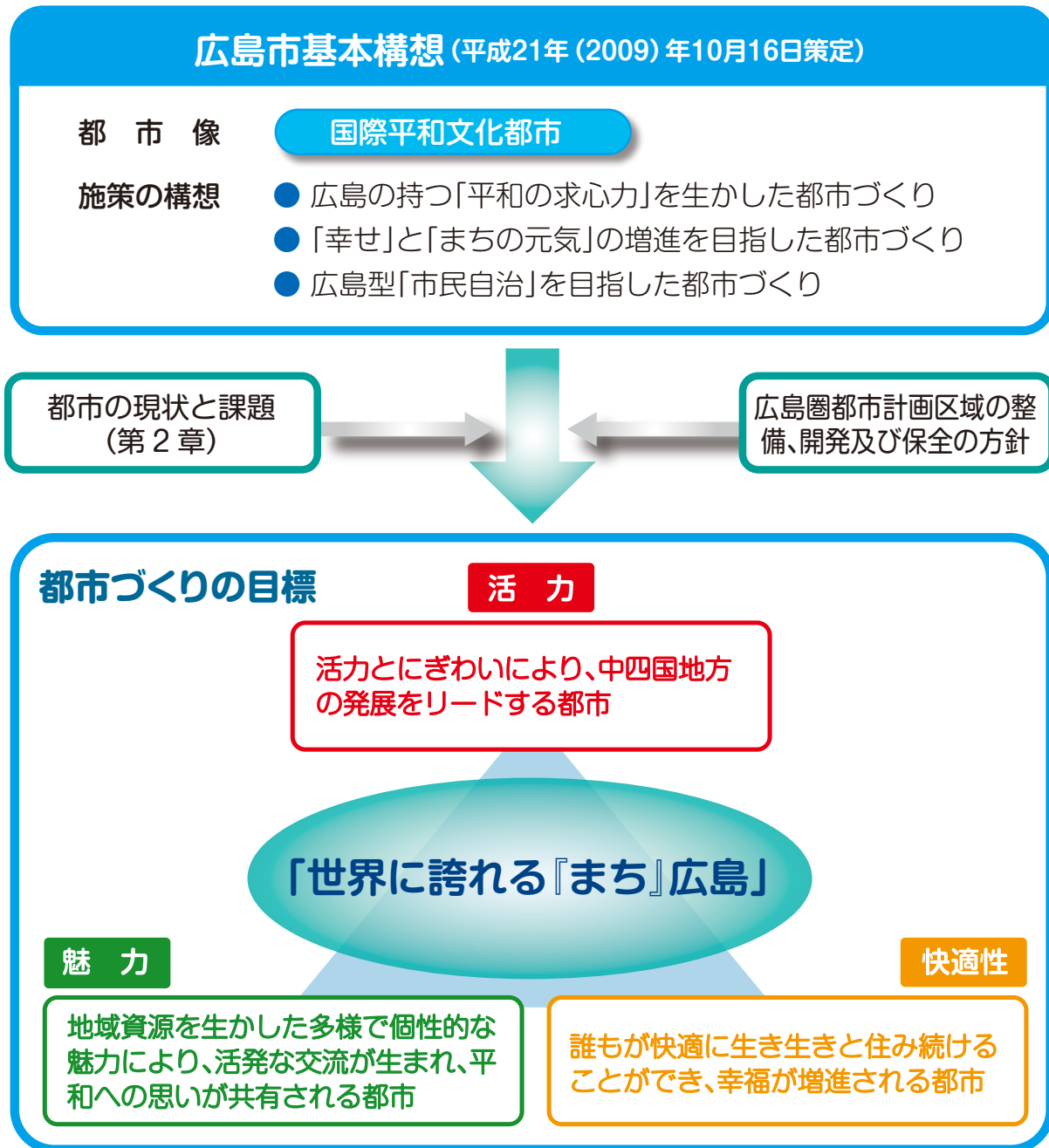
第6章

マスタープランの実現に向けて

- 1 市民と行政との連携・協働の推進
- 2 総合的な施策展開の推進

1 都市づくりの目標

広島市基本構想が掲げる都市像を実現するため、第2章で整理した都市の現状と課題などを踏まえ、“活力”、“魅力”、“快適性”という三つの視点で、都市づくりの目標を設定します。



① 活力とにぎわいにより、中四国地方の発展をリードする都市

本市は、中四国地方の中核都市として、市域のみならず、広島県全体の活力を生み、中四国地方の発展に貢献する存在とならなければなりません。その土台となるのは、地域経済の持続的な発展により実現する「活力にあふれにぎわいのあるまち」です。

このため、「活力とにぎわい」を生み出す基盤として、都心及び拠点地区の機能強化に取り組み、圏域全体の発展をリードする都市づくりを進めます。



平日の昼間からにぎわう本通商店街



都心部のビル群

② 地域資源を生かした多様で個性的な魅力により、活発な交流が生まれ、平和への思いが共有される都市

広島を歴史を伝える魅力的な資源や水と緑に恵まれた自然環境などを生かして、様々な目的を有する幅広い来訪者にアピールできる個性的で魅力あるまちづくりを進めることにより、国内外の多くの人々が訪れ、多様で活発な交流が生み出される都市をめざします。

さらに、こうした資源を活用して、平和都市として建設されてきた本市の歴史を伝えていくための都市環境の形成に取り組み、広島を訪れた人々が平和への思いを共有する都市をめざします。



国内外から多くの人々が訪れる平和記念公園



水と緑に恵まれた元宇品地区

③ 誰もが快適に生き生きと住み続けることができ、幸福が増進される都市

人口減少・超高齢化や市民ニーズの多様化に対応した質の高い都市空間の形成を図るとともに、災害や犯罪への十分な備えを有する安全・安心な都市づくりを進めます。

さらに、こうした都市の姿が将来にわたって持続するよう、都市経営の効率化と環境負荷の低減にも取り組み、誰もが快適に生き生きと住み続けることができ、幸福が増進される都市をめざします。



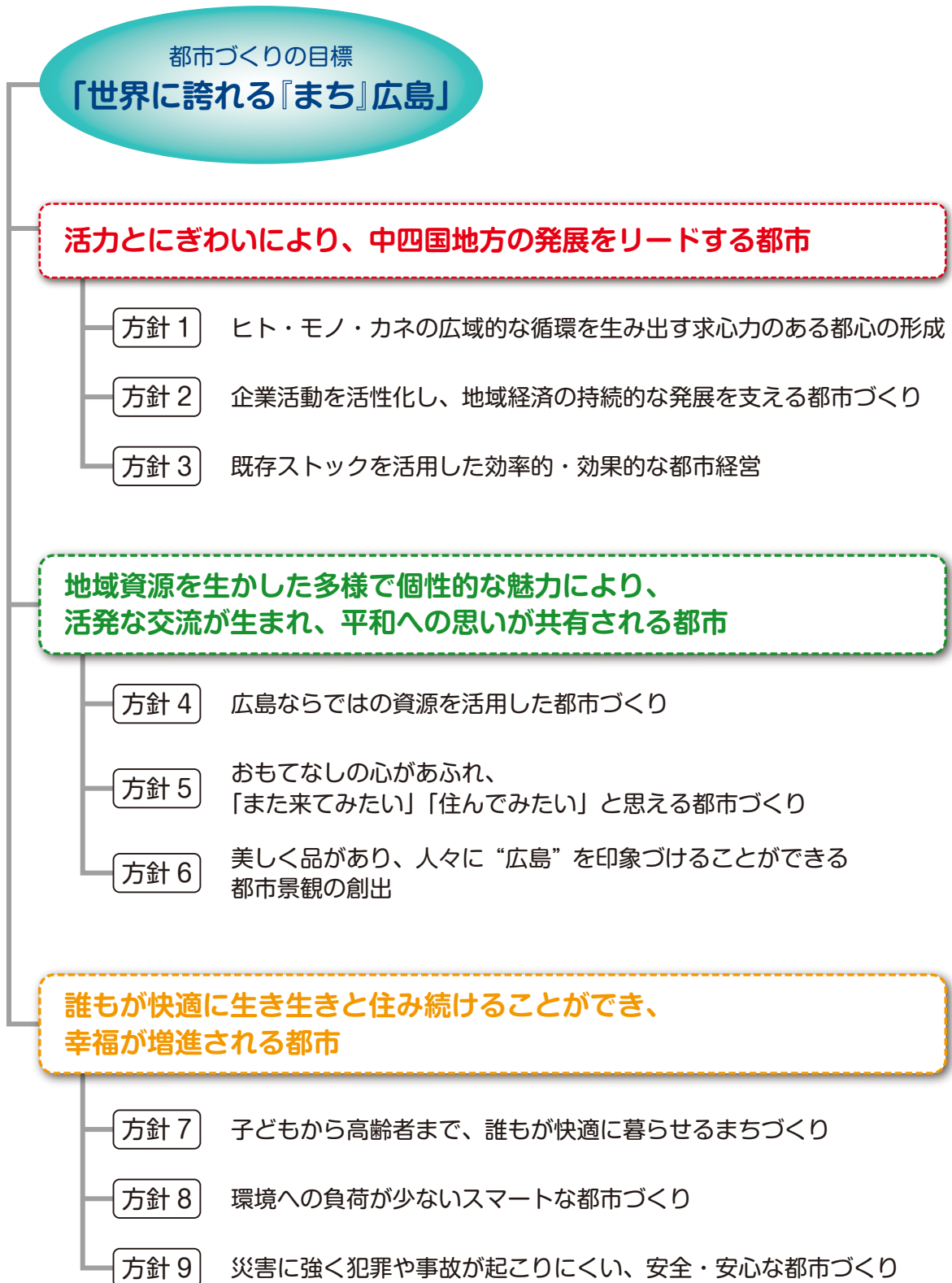
快適で潤いのある市街地
(佐伯区海老山南)



港湾施設を改修したにぎわい施設 (南区宇品)

2 都市づくりの方針

都市づくりの目標を実現するため、これからの都市づくりの方針を以下のとおり定めます。



方針1

ヒト・モノ・カネの広域的な循環を生み出す求心力のある都心の形成

活力とにぎわいのあるまちの実現に向けて、広島の「顔」である都心の求心力を一層高め、ヒト・モノ・カネの県域を越えた大きな循環を生み出していく必要があります。このため、**広島**の陸の玄関である**広島駅周辺地区**と**紙屋町・八丁堀地区**を都心の東西の核と位置付け、それぞれが活力とにぎわいのエンジンを持ち、相互に刺激し高め合うような「楕円形の都心づくり」を進めます。

また、大規模未利用地4箇所（二葉の里地区、旧広島市民球場跡地、広島大学本部跡地、広島西飛行場跡地）について、都市全体を視野に入れた都市機能の分担・配置を考慮しながら、**広島**の底力を引き出せるよう、将来を見据えたしっかりした活用を図ります。

さらに、都心の回遊性の創出を図るため、歩きやすく、自転車や公共交通によっても快適に移動できる交通環境の整備に取り組みます。



旧広島市民球場跡地周辺



二葉の里地区周辺



広島西飛行場跡地周辺



広島大学本部跡地

方針2 企業活動を活性化し、地域経済の持続的な発展を支える都市づくり

中・長期的な視点に立って企業活動の活性化を促すため、**企業が立地・進出しやすい環境づくりや、民間投資の誘導方策に積極的に取り組みます。**

これが地域経済の発展と雇用の創出をもたらし、ひいては税源の涵養にもつながります。

広島には、ものづくりの高い技術を有する地場産業が多くあるほか、商工センター地区のように卸売業、物流業等の流通産業が高度に集積されたエリアもあります。

これらの大半が中小企業で構成されており、こうした企業の振興を図ることで、地域経済の基礎であるヒト・モノ・カネの循環が活発化し、地域経済の振興と雇用の拡大に大きく貢献します。このため、事業拡大や技術開発などに積極的に取り組む地場の企業を支援する取組を充実・強化します。

一方で、企業誘致は、新たな雇用を生み出し、従業者による消費や市税収入の増加などの循環を促します。とりわけ、今後の時代を見据え、成長する分野の企業誘致に取り組むことが重要です。地場の企業についても、成長分野への進出が容易にできるような支援を行うことが必要です。

このため、例えば、産業集積の場としてポテンシャルの高い西風新都において、新たな企業の誘致をより一層推進するとともに、地場産業の事業拡充の受皿として活用できるようにしていきます。

また、**企業活動を支える都市基盤の整備についても、中・長期的な視点に立って取り組んでいきます。**



西風新都 伴南工業地区

方針3 既存ストックを活用した効率的・効果的な都市経営

市税や地方交付税等の一般財源収入が減少傾向にある中、社会保障費や公債費といった義務的な経費が増加しており、本市の財政は硬直化が進んでいます。このため、財政負担につながる事業のあり方を見直し、収支構造そのものを変えていくことが重要であり、歳入・歳出の両面において、適切な取組を行う必要があります。

特に、**公共投資については、低成長、人口減少局面を迎えた今、新規の整備は、真に必要なものに限定して重点的に進めるべきであり、そのため、これまでに整備されてきたストックを有効活用するほか、戦略的な維持管理・改築更新により、都市経営コストの削減を図ることが必要です。**

また、活力とにぎわいの向上を図っていくため、ニーズの変化等により他用途での利活用が望ましいと考えられる施設の用途転換を進めるほか、未利用地の売却・有効活用にも取り組む必要があります。



橋りょうの点検作業（アストラムライン）

方針4 広島ならではの資源を活用した都市づくり

広島には、歴史を伝える魅力的な資源や美しい自然、豊かな食文化、水辺を生かしたにぎわい空間、「動く交通博物館」と言われる路面電車など、観光資源として活用できる様々な資源があります。

スポーツ・文化芸術の面でも、広島東洋カープ、サンフレッチェ広島のようなプロスポーツチームや広島交響楽団、各地に伝わる神楽など、誘客力のある資源を多く有しています。

近隣市町も、宮島の厳島神社や岩国の錦帯橋など、観光資源の宝庫です。

ヒロシマという世界的な知名度をテコにしつつ、こうした資源を活用し、県や近隣市町とも連携しながら、観光地としての魅力の向上と誘客の促進に取り組めます。

また、次世代の市民や広島を訪れた人々に、被爆の実相と平和都市として建設されてきた歴史を正しく伝えられる都市環境の形成にも取り組みます。



原爆ドームと平和記念公園



宮島の厳島神社（廿日市市）



広島市民球場



錦帯橋（山口県岩国市）

方針5 おもてなしの心があふれ、「また来てみたい」「住んでみたい」と思える都市づくり

どんなに素晴らしい観光資源があっても、それだけでは多くの人を惹き付けることはできません。そこへ至る動線やまち全体の空間の美しさ、そこに暮らす人々の立ち居振る舞いまでも含めた「おもてなし」が、市民はもとより、訪れた人に居心地のよい安らぎを与えます。

例えば、ごみや落書きのない、花と緑あふれる美しいまちは、そのまちに暮らす一人一人の小さな取組の積み重ねがなければ実現しません。それは、地域に愛着と誇りを持つ市民と行政が一体となって取り組むべき課題です。

このため、市民との連携・協働の下で、地域資源や特性を生かしたまち起こしを進め、来訪者に「また来てみたい」「住んでみたい」と感じてもらえるような、おもてなしの心があふれる空間づくりに取り組みます。



地元企業による花苗の植え付け作業（平和大通り）

方針6 美しく品があり、人々に“広島”を印象づけることができる都市景観の創出

広島は、世界遺産原爆ドームや戦後復興の過程で建設された平和記念公園、平和大通りなど、平和都市を象徴する資源を数多く有しており、これらを基軸としたまちの姿は世界的にも高い評価を受けています。

また、広島城や不動院などの歴史資源、水と緑といった自然資源を生かした美しい都市空間も、国内外の多くの人を惹き付け観光の振興に寄与するものです。

このような**広島が、世界中の多くの人々が訪れ、平和への思いを共有する舞台にふさわしい都市となるよう、個性的で魅力のある景観づくりを進め、美しく品のある都市景観を創出します。**

このため、広島市全域を対象とした「**広島市景観計画**」を策定し、良好な景観を形成することの意義や必要性について市民や事業者と意識の共有化を図りながら、総合的かつ計画的な景観行政を進めます。



原爆死没者慰霊碑から望む原爆ドーム



京橋川オープンカフェ



方針7 子どもから高齢者まで、誰もが快適に暮らせるまちづくり

高齢化の進展やライフスタイル・価値観の多様化などを踏まえ、**年齢、性別、障害の有無**などに関係なく、**誰もが快適に働け、安心して子供を生み育てることができ、くつろぎ、余暇を楽しむことができるまちの実現をめざします。**

そのため、快適な交通環境の確保と高齢者、障害者、子育て世代などの生活利便性の向上を図るほか、市民の社会参加・交流や高齢者の健康づくり活動などの促進にも留意したまちづくりを進めます。

また、郊外住宅団地や都市縁辺部の集落などでは、人口減少・超高齢化による地域活力の低下や生活環境の悪化が懸念されており、環境の維持・改善が求められているため、地域特性に応じた対策に取り組みます。



広島電鉄の超低床車両：グリーンムーバーマックス

方針8 環境への負荷が少ないスマートな都市づくり

温室効果ガス排出量の削減のため、地球温暖化防止の国際的な枠組みを踏まえ、**都市構造の見直し、エネルギー利用の効率化、建築物の環境性能の向上、環境にやさしい交通手段への転換、温室効果ガス吸収源の拡大などの取組を総合的に進め、環境負荷の少ない低炭素型の都市をめざします。**

エネルギー利用の効率化については、西風新都において先導的にスマートコミュニティを推進するなど、段階的に取組を広げていきます。



屋上設置されたソーラーパネル（広島特別支援学校）

方針9 災害に強く犯罪や事故が起こりにくい、安全・安心な都市づくり

局所的な大雨による水害・土砂災害の発生や、東日本大震災のような非常に広範囲で規模の大きな地震災害の発生など、近年の自然災害からの教訓を踏まえ、**地域の防災力を日頃から高めるとともに、災害時に被害を最小限に抑えるための体制の整備に取り組み、災害に強く安心して生活できる都市づくりを進めます。**

また、市域全体の防災力を強化するため、デルタ市街地が被災して防災拠点施設の機能が損なわれた場合を想定し、代替機能を西風新都へ導入することなどについて検討します。

さらに、日常生活の安全・安心を確保するため、**市民と行政が連携・協働して積極的に取り組み、犯罪や事故の起こりにくい都市づくりを進めます。**



災害救助と災害対策本部のイメージ